



# 園だより 1月

令和8年1月8日

千代田区立麴町幼稚園

園長 木村 恭子

新年おめでとうございます

園長 木村恭子

へビからウマへとバトンが渡り、新しい一年が始まりました。活気あふれるイメージの午（うま）年ですが、今年は60年に一度巡ってくる丙午（ひのえうま）の年です。丙午は、情熱をもって挑戦することで、大きな飛躍や成長につながる年と言われているそうです。子どもたちの育ちにも、その力強い流れを重ねていきたいものです。

本園では今年度、園内研究のテーマを「感じ・考え、豊かな経験が生まれる環境構成や援助」とし、子どもたちの遊びに生まれる“探究”に視点を当て、教育内容の充実に取り組んでいます。「どうしてだろう」「こうしてみよう」「どうなるだろう」と、自ら興味をもち、心を動かしながら試していく経験こそが探究であり、その積み重ねが、感じ・考え、探究を楽しむ力を育むと考えています。



お鍋に帽子、マフラーを付けた妖精も登場。

子どもたちの探究は、日々の遊びのさまざまな場面に息づいています。冬が近付くと、5歳児そら組で毎年登場するマフラー作りが今年はさらに発展。短く編んだ中（筒状になっています）に綿を詰め、目や手足を付けて“あみぐるみ”になって流行しました。要領を得ると、色や太さの違う毛糸を組み合わせたり、長さを変えてみたりと何度も挑戦。「少し難しそうだけど、やってみたい!」という心の動きが、次の探究へとつながります。今月23日（金）から始まる連合作品展では、秋が深まる森の中で暮らす妖精?として、帽子をかぶったり、お鍋を囲んだり、愛嬌たっぷりの姿で登場します。

一方砂場では、4歳児やま組のAさんたちが「落とし穴づくり」を始めました。少々物騒?なこの遊び。寒空の下で穴を掘り続ける楽しさは何?と思いきや、いえいえこれがたいそう心も頭も動かしているのだと、見守る教師が教えてくれました。日が経つにつれ穴の数が増え、広さや深さを比較したり、友達に掘るコツを伝えたり…。それは面白そう!と見に行くと、「ここ（浅い方）に落ちて、びっくりするでしょ。それで（慌てて）こっち（深い方）に落ちるんだ」とナイショの作戦をAさんが教えてくれました。「なるほど～。でも誰を落とすの?」と聞くと、嬉しそうに「先生!」と一言。翌日には仲間が増え、傍で見ていた3歳児はな組がお試して穴に入れてもらい…。探究の輪はワクワクと共に広がります。

うまくいかなくても別のやり方を考えたり、友達と考えや気付きを伝え合ったり、重ねる中で“考えるって楽しい”という感覚が育ちます。それは、就学後の学びはもちろん、豊かな人生の土台となっていくでしょう。丙午の年にふさわしく、一人一人が心を燃やし、挑戦し、そこから大きな成長を遂げていかれるよう、職員一同、ともに喜び、驚き、見守る存在として子どもたちの歩みに寄り添ってまいります。

本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

